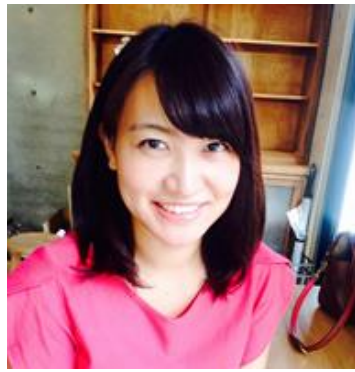


ふりがな 氏名	まちだ えりこ 町田 恵理子	都道府県	東京都	
所属/肩書	大田区立大森第六中学校 / 教諭			
私のESD活動	ESDFoodProject に参加し、「食」をテーマに国内外の学校と協働して食品ロス削減や地産地消の推進等			

活動の概要

ESD Food Project に学校として参加をした。インドやインドネシア、タイ及び国内の学校と協働して「食」をテーマに1年間通してスカイプやメール等で意見交換をしながら、互いの活動がより深まるよう働きかけあった。本校では有志の参加メンバーを募り、学年を越えて20名程度のプロジェクトチームを立ち上げ、各メンバーが「食」に対してどのような課題意識を抱いているかを探るために夏休みに個人およびグループ研究を実施した。それぞれの意見をもとに課題が共通しているメンバーでグループ編成を行って、具体的に活動できる内容を検討した。具体的には、地産地消の大切さを知って、広めるために大田区伝統野菜の「馬込三寸人参」の生産者の方をお招きして、講演をして頂いた。また、大田区主催 野菜と花の品評会・区民参加による収穫祭に参加をして大田区産の野菜を購入して、実際に調理をした。土地に適した栽培方法で作られた栄養価の高い野菜を食して健康促進を図るだけでなく、普段は捨ててしまいがちな部分も用いた料理にチャレンジした。

食品ロスを問題視するグループは、給食の廃棄量を掲示して何人分の食事に相当するかを校内に掲示し、給食を残さず食べるよう促した。栄養士や調理師の方々にもインタビューをして給食に対する想いも全校集会で伝えるなど、生徒の意識に変容が起きるよう働きかけた。

今後の活動や協働への展望

コンファレンスへの参加を通して、ユース同士でのつながりを構築して継続的に意見交換をできるような関係づくりに励むことで、現在の中学校での勤務を終えたあともユースの一人としてESDの実践をする場を発見できると考えている。特に区立中学校教員なので、今後の異動先の学校でESDの実践を推進していくためには、横のつながりが不可欠である。一人ではなく、日本全国そして海外にもESDの実践者がいるという実感は、自分自身がESD活動を推進していくにあたって大きな力になる。協働してできることを積極的に見出し、持続可能な社会の担い手づくりを今後も行っていきたい。現在の勤務校で行っている活動をより発展させていくために、学校外の団体の方々と協働する機会があれば是非実施したい。取り組んでいる活動を学校内だけでなく、広く地域社会に浸透させて意識や行動が持続可能な社会づくりへと変容させることができるようになるためには、諸団体の方々が取り入れている手法を知ることが有効であると思っている。特にSDGsの達成に向けて海外とも協働していくためには、先駆的に海外や諸団体と実際に協働して取り組んでいる実践例等を伺って、教育現場にどのように適応させていけばよいか考えて今後の活動に活かしていきたい。ユース同士でプロジェクトを立ち上げることができれば、互いの実践経験を活かして積極的且つ円滑に新たな企画も推進していけると期待している。